令和6年度志摩市地域公共交通会議 第2回離島航路幹事会 議事概要

日 時 令和7年1月10日(金) 13時30分～

場 所 志摩市役所4階 401会議室

【出席委員】

名古屋大学大学院環境学研究科 教授

加藤 博和

(オンライン参加)

間崎自治会 会長

下川 元三

間崎婦人会 会長

山本 くに枝

一般社団法人志摩市観光協会 専務理事

岡田 英美

社会福祉法人志摩市社会福祉協議会 会長

前田 正典

中部運輸局三重運輸支局 鳥羽海事事務所長

中村 陽一

志摩マリンレジャー株式会社 取締役社長

矢尾 弘

三重県南部地域活性化局 次長兼南部地域活性化推進課長

山本 佳子

志摩市政策推進部長

山本 和輝

事務局	<p>みなさん、こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただ今より令和6年度志摩市地域公共交通会議、第2回目となります離島航路幹事会の方を始めさせていただきます。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては大変お忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。本日の司会を務めます、総合政策課課長坂井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは着座にて進めさせていただきます。</p> <p>本日、委員10名のうち現在7名ですが、あと2名の方がこちらに向かっており出席されるということで、半数以上の出席の要件を満たしておりますので、志摩市地域公共交通会議の設置要綱第4条第4項の規定に基づきまして本会議が成立することをご報告させていただきます。</p> <p>また本会議につきましては、同要綱第4条第7項の規定に基づき公開で行い、また議事要旨、資料につきましても公開させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきたいと思います。</p> <p>【資料の確認】</p>
事務局	<p>それでは、ただ今から議事に入りますが、議長につきましては同要綱第4条第2項の規定によりまして幹事長が議長となることとなっておりますので、幹事長であります山本政策推進部長、よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>はい、みなさん。改めましてあけましておめでとうございます。</p>
一同	<p>おめでとうございます。</p>
議長	<p>本年もまた、よろしくお願いいたします。先ほど紹介をいただきました、幹事長を務める政策推進部長の山本でございます。委員の皆さまにおかれましては大変お忙しい中、会議にご出席をいただきましてありがとうございます。(モニターに向かって)先生も、ありがとうございます。</p> <p>それでは、着座で進行の方をさせていただきたいと思います。</p> <p>本日の第2回の離島航路幹事会については協議事項が2つございます。限られた時間の中ではありますが活発な議論を行っていただきますよう進行をしていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ではありますが、事項書に沿って進めさせていただきたいと思います。</p>

事務局	<p>まず協議事項 1、地域公共交通確保維持改善事業の事業評価についてということで、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【資料 1 の説明】</p>
議長	<p>ただいま議題の 1 について、事務局の方から説明をさせていただきました。資料がたくさん付いていますが、見ていただいた通り、全体的な人数は目標には達することはできなかったのですが、内容を見ると、やはり観光客の利用というものが徐々に増えてきているというのが、数字として表れているのかなというところもありますので、今回の評価 B ということではありますが、島民や定期券の利用と、観光客利用も併せて、今後、令和 10 年に 16,000 人という指標も示していますけれども、より改善できるようにやっていきたいというところでございます。</p> <p>今説明をしていただいた内容の中で、皆さま方のご意見、ご質問等がありましたらお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員 A	<p>一か所だけ、よろしいですか。海事事務所の A です。</p> <p>資料 1 - 2 の⑥、事業の今後の改善点ということであげていただいております。14 ページの方に昨年度の評価の改善点が参考ということで付いています。2 ページと 14 ページを見比べさせていただくと、ひとつは、大学生などによる研究活動等のフィールドとして利用促進を図る、ということと、もうひとつは、過去の会議でもご意見はいろいろ出ておりましたがサイクリングツーリズムということが昨年は入っていたのですが、今年はこれを抜くということでよろしかったのですか。そこだけ教えていただきたいと思っております。</p>
議長	<p>それでは事務局、お願いします。</p>
事務局	<p>はい。まず大学生と連携した取組というところですが、実は中心的に学校機関と調整してフィールドとして協力していた島民の方が転居してしまいました。今までその方が中心になって学校機関と一緒に調整をしていただきながらサポートをしていたもので、そこがまずひとつ難しくなったという点がございます。</p> <p>そして、サイクリングツーリズムに関しましては、自転車の運搬というのはおっしゃっていただいている通り非常に重要な取組でございますので、ご意見を踏まえて再度記載はしていくように修正させていただけたらと考えて</p>

	<p>おります。一方で、志摩マリンレジャー様のオペレーションの状況もあります。ひとりで船を運航されている中で、船への自転車の積み下ろしというところがなかなか難しいという状況があると聞いておまして、このあたりB委員の方から少し補足いただけるとありがたいと思います。</p>
委員B	<p>これは前回もご説明をさせていただいたかと思うのですが、乗降について賢島はいいのですが、間崎島と和具については、岸壁の乗降になります。潮の高さによってかなりの高低差のある階段を、自転車をさげて乗り降りしなければならない、ということと、もうひとつは船長がひとりで岸壁に頭をつけ、エンジンで押しているという状態で乗降してもらっています。それで、仮に斜めになった時には立て直さないといけないので、船長自身が運転席を離れるわけにはいかない。ということで、自転車を持たれた方が危険な状態になった時に介助に行くことができないというようリスクがあって、私共としては危険度を増すというのは歓迎していないということがあります。もうひとつは、ダイヤの方が着発になっております。着いたらすぐにそのまま出ていくようになっていきますので、自転車の乗せ降りに時間がかかると遅延が生じるという結果になります。こちらの方も含めてですね、私共としては自転車を積極的にPRしてそれによって活性化するという方針については積極的に考えています。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございました。 それではその他、よろしいでしょうか。はいどうぞ。</p>
委員C	<p>三重県庁のCでございます。すごく単純な話で、9ページの年間輸送実績の利用者別の表をまとめていただいたところで教えていただきたいのですが、先ほどご説明があったように島民の方の利用が減っているというのがあるということと、逆に観光客の方は増えているという話でした。離島住民の方の利用が減少というところの説明分析として、高齢化などの原因があるというお話があります。参考としていただいている間崎島の人口の減り具合からみると6年度の数字としてこれくらい減るのはそうなのか、と思わなくもないのですが、一方で、実際、離島住民の令和5年度の利用者数が3,873人でした。大幅に減っているというところのポイントは何か、何がバリアになってこんなに減ってしまっているのか、それを解消する何か改善点みたいなものはあるのかどうかというところを教えていただければと思います。</p>

事務局	はい、ありがとうございます。
委員D	では、それについて。いいですか？
議長	はい、どうぞ。
委員D	<p>間崎自治会のDです。この数字は事前に市役所からも聞いていて、いろいろ理由についても考えました。確かに数人は亡くなって、よく利用していた方も亡くなったり島を出られたりというのもあると思うのですが、対前年度比なので43%、確かに半分近く減っているという大幅な減少です。それで、この表の一番左の令和元年に2,970人があってそれから3分の2になっているということですが、ちょうどコロナが始まった令和2年、その頃に敬老会の名簿をもとに厚生省が出している死亡率から2025年、2030年の人口予想をした時に、それだと純粋な自然減で2030年にちょうど半分になっていました。だから長いトレンドで見ればそういう過程なのかな、と思います。ただ令和5年が3,800と一時的に上がっているものの、島民は全然増えていません。長いトレンドで見れば2,900、ほぼ3,000人近いのが2,200近くまで減ってきているというのは、ほぼ島民の数と比例をしているのではないかなと考えています。</p>
委員C	ありがとうございます。そうすると令和5年度が住民の人口が増えたわけじゃないのに、大きく増えたのは逆にどうしてでしょうね。
委員D	そこも、同じくどうしてかと思ってしまうのですが。何ですかね。
委員C	いかに住民の方のご利用を増やすかというのも正直難しいところもあると思いつつ、そうであれば、観光客の方を大きく増やすというところにシフトせざるを得ないのかなと思い、何か少しでも改善できるのであればというところでいろいろ聞かせていただきました。ありがとうございました。
議長	<p>ありがとうございました。深い部分でお答えができなくて申し訳ないですが、確かにその辺りは、やはり原因がわからないとなかなか改善につながらないというところではありますので、ありがとうございます。ご意見いただいた内容についてはまた、今後活かしていきたいと思っております。</p> <p>その他、いかがでしょうか。それではE先生。この件、ご意見等ございましたらお願いしたいのですが。</p>

<p>委員E</p>	<p>はい。見させていただいたのですが、極めて表面的な分析で問題だと思っています。今の離島住民の件もそうですが、長期的なトレンドだからいいなんて言い方をしても、短期的に利用の増減はどうしてそれが起こったのか気になりますよね。島民もそんなにいないので、ある特定の人が理由かもしれないし、そういうことはわかると思います。43.8%減少したのは一体なぜなのか、そのことを説明する必要があると思います。</p> <p>それとこれも以前から言っていますが、学生も、水産高校ならこれを使いそうな人が何人でそのうち何人が使っているとか、ひとりあたり何回使っているかということをやらないといけないと思います。単純にいつも分母が減ったから減ったのは当然みたいな、そんなことではないですよ。分母が減っただけ減っているのか、それより多く減っているのか少なく減っているのか言わないと分析の意味がないです。そういう分析をやらないと新しい施策が考えられないというか、出てこないです。</p> <p>それから、この学生及び通勤客とありますが、学生がどのくらいで通勤客がどのくらいかはわかりますか。これ、学生と通勤客では全く違いますよね。</p>
<p>委員B</p>	<p>持ってきてはいないですが、資料は会社にはあります。</p>
<p>委員E</p>	<p>なるほど。これは単純に、通勤客が何枚か学生が何枚かというのはわからないですか。</p>
<p>委員B</p>	<p>今手元に資料がないのでご説明できません。</p>
<p>委員E</p>	<p>これも30.8%減ですからね。30.8の内、学生がどれだけ減って通勤客がどれだけ減ってという数字をどうして出さないのですか。こういうのを見たら、特にどこが減っているのか分析するのは当たり前だと思います。</p> <p>それと、一番右のところに、地域公共交通計画におけるR10評価指標が出ていますが、これに対して今は、左下の13,611、これにあたりと考えるといいですか。これだと市民が入っている、一方で島民以外の志摩市民という時に、志摩市民でも観光で行っている人がいるかもしれないというのはどうやって選ぶのですか。地域公共交通計画でこの評価指標が出たということは、測り方がわかっているから出したのだと思いますが、測り方がわかるのならここで確認しなければいけないですよ。16,000人に対してどうだったのか。16,000人に対して今いくらというのはわからないですか。</p>

事務局	はい、ご指摘の点でございますけど、こちら地域公共交通計画における評価指標の観光客等の定期航路利用者数というものと、左下、島民以外の志摩市民及び観光客の数字というのは、同様の数字という認識でございます。
委員E	「等」というのが、島民以外の志摩市民ということですか。
事務局	はい、おっしゃるとおりでございます。
委員E	それはどこに提示してありますか。地域公共交通計画にそう書いてあるのですか。
事務局	志摩市地域公共交通計画の33ページになりますけれども、「観光客等とは、間崎島民と定期券利用者（高校生及び通勤客）を除いた、市民及び観光客を指します」というような注釈でさせていただきます。
委員E	<p>では、ここに「観光客等」と書いてあるのは、計画の中にそう書いてあるからですか？この図の中で同じものを説明する時に違う書き方をすると、比較できるのかできないのかわからなくなります。比較できないのなら何で違う数字を出してくるのかとなるし、比較できるなら同じ書き方をしてくださいとなりますから、そういうところが非常にあやふやですね。</p> <p>あと、これは全体として5年度6年度は10月から9月ですか。13ページもそうですか。目標値だとか達成状況のところとか、それは全部10月から9月ですか。</p>
事務局	はい、ご指摘のとおり10月から9月の目標となっております。
委員E	<p>目標値も大丈夫ですか。地域公共交通計画で目標値を立てているとしたら、例えばR10評価指標でいうと、通常地域公共交通計画なら4月から3月を意図しますよね。それで、この確保維持改善計画は10月から9月ですので、半年ずれているから変わる可能性がありますよね。普通はあまりそれで変わらないと思いますけど、これを見ると離島住民は43%も変わるから、10月から9月なのか4月から3月なのかあやふやだと困ります。だからこれは、年度とは書かずに5年10月～6年9月と書いた方がいいと思います。年度と書くと、普通は4月から3月だと考えると思います。</p>
事務局	ご指摘ありがとうございます。そのように修正するようにさせていただきます。

	<p>ます。</p>
<p>委員E</p>	<p>あと、この利用者数を離島住民と定期客とそれ以外というように、それぞれについて目標設定することは考えないですか。つまり、離島住民が減るのだとしたら、それはもう仕方がないからそういう目標にするとかいうことはやらないのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見ありがとうございます。島民など、そういう利用者区分のなかでの目標設定については改めて事務局の方で考えさせていただきます。ありがとうございます。</p>
<p>委員E</p>	<p>事業の今後の改善点とか目標とかそういうことを書かれるのは普通だと思うのですが、できなかったのがどうかというだけでなく目標の立て方がおかしいのかもしれないです。先ほどの14ページで、前年度は利用客が増えたので、その24,775人に対して強気の目標にしたということですが、それについても注意点があり、これは6年の1月にやったもの、つまり1年前のものです。1年前にやったということは実はもう、令和6年補助年度に入っているので、ここで改善点などを出しても実際にはこれが実施されるのは令和6年のもっと先になり、これを実施したかどうかという時に、9月までだと時間はあまりないということです。これはもう仕方がなくて、令和6年1月に改善点が出たら、次は令和6年の6月にこれの令和7年補助年度の計画を作るので、令和7年補助年度つまり今の時期ですけど、この時期にやっていなければいけないということになります。9月までにやれているかどうかかわからないのでそこが少し悩ましいのですが、全くやらないというわけではないからこの4つを挙げているということですよ。だとしたら、この4つについて今やっているかどうか、あるいは10月以降やる予定にしているかどうか、というまとめは必要だと思います。さらに、その1年前の令和5年1月にやった同じところもみておく必要があります。そうなった時に1ページの、何をやっている、やっていないという改善点とどういう関係があるのかを見ておかなければいけないとなりますが、そこはどうなっていますか？つまり、昨年1月に「こうしないといけない」と言ったのにやれていないとか、未だにやる予定がないとかなら怠慢です。一方で、やっているから効果出たというのならとても素晴らしいし、やったことはやったけど効果がすぐ出ないのでまだこれから、ということになるかもしれないですが。その辺がきちんと対応できているかどうか、ここで考察されなければいけないと思います。それが前回の反映状況というものですか？前回とはいつですか。</p>

事務局	<p>はい、14ページになりますけれども令和6年の1月の評価結果を基とした6年度反映状況ということで考えております。</p>
委員E	<p>でも、今見ると対応していないですね。14ページの1, 2, 3, 4と1ページの1, 2, 3, 4, 5とは、4つと5つで対応していないです。先ほどのサイクリングツーリズムも、ここには何も書いていないです。反映状況というのは、やっていないから書いていないということですか。やっていないというのは、マリンレジャーさんが消極的だとおっしゃっていましたが、マリンレジャーさんが十分ご理解というか、これはやるべきだと思っておられないのに、この計画に書くということは反省点です。それを踏まえて、目標設定したけどそこは見込めなかったとなれば反省点ですよ。</p> <p>だからとにかく、脈略がおかしいのは考察が表面的だからだと思います。例えば前回、ある反省点があったからこういうことをやらなければいけないとなって、それをやったかどうか。それで、やっていないのならばなぜやっていないのか、やっとうまくいっていないのならばなぜうまくいかないのか。やっとうまくいっているのならいいし、でももっとこういうふうにできるといい、結果として数字がこれだけ上がった、下がった等という脈略がなんら繋がっていないです。</p> <p>そうすると離島住民が43.8%減ったのかどうかというのが、人口減少に比べて圧倒的に多く減っているのです、それだけの理由ではないわけです。別に、仕方がない要因があるとは思いますが、仕方がない要因があったということは何も示さずに人口減少しているからと言われても、それに比べて大きく減っているのはどうしてかというのを言ってくれないと答えになっていませんね。</p> <p>それで、これが国に提出されても、国の人と同じように見ますよね。我々に比べても事情がわからないので、余計にそういうところをシビアにみると思います。だから、非常にヘビーに使っている人がいなくなったとか、こういう要因があったということを考察しないで、人口減少で減ったと言われると何も分析していませんね、と感じるわけです。</p> <p>あと、もう1点。AIオンデマンドの話が出ていますが、これは10月以降の変更で出てくる効果になりますか？この今後の改善点の。</p>
事務局	<p>はい。令和6年11月19日から第2期として始まっておりますので、次の計画の期間に入ってくるところです。</p>

委員E	ですが、これは和具の方は既にやっていましたよね。
事務局	はい、おっしゃるとおりです。
委員E	<p>では、和具の方についてはどういう効果があったかという考察がどこにもないですね。どれくらいの乗り継ぎがあったか、などを調べなければいけないと思います。この政策をやったらこれが増えるはずなのでここをチェックしたとか、これが増えたのはどうしてか、こちらを動かしたからか、などそういうことを分析していただきたいと非常に強く感じた資料でした。</p> <p>あと、もう1点伺いたいんですけど、今回これは離島航路の話ですが、このタイミングで地域公共交通計画の評価をしなくていいのですか？毎年、この同じ時に出すものだと思っております。そうすると、先ほどの令和10年の評価指標とか、あるいはそれ以外でも、それをチェックしておかなければいけないと思うんですけど。</p>
事務局	はい、ありがとうございます。地域公共交通計画の評価に関しましては、PDCAサイクルでいいますと例年9月に行わせていただく予定となっております。前地域公共交通網形成計画の評価というものも併せて令和6年9月に行わせていただいたところですので、次に評価させていただくのは、地域公共交通計画を基に令和7年9月に実施をさせていただくと想定をしております。
委員E	それは、市のなかとしてはそうだけど、運輸局に求められているのではないのか、と思ったのですけど。エクセルの1枚紙ですよ。それは、運輸局さんに求められたら出さなくてはいけないから注意してくださいね、ということですが。
事務局	はい、承知いたしました。運輸局と一度確認をさせていただいて、適正に対応させていただくようにいたします。
委員E	とにかく以前から申し上げていますが、1ページの離島住民の方、それから主に学生だと思っておりますが定期客、それからそれ以外、これは主に観光客、その3つというのがそれぞれ全く別個の動きをしていて脈絡も違います。それぞれについて、どういう施策をすることでどれくらい増やしたいか、次年度の目標を設定してほしいと毎年言っております。それに、学生及び通勤客も、学生と通勤客は動きが違いますよね。ということなので、そこを何とか

	<p>していただきたいです。あと市民、観光客も、これは個人的に現金で乗られる方と、まわりゃんせとかそういうので乗られる方と、わかりますか？</p>
委員 B	<p>企画乗船券で乗られる方は、わかります。あと、団体等の割引乗船される方、これもわかります。現金でお買い求めになった方が、志摩市民なのか他から来られた観光客なのかをつかむ術はないです。</p>
委員 E	<p>それは無理ですよ。僕はそういう企画だとか団体だとかも大事だと思うのです。そういう人たちをどんどん誘致することの施策をやらなければいけない。その団体というのは、どういう団体なのか、とか例えば、どちらの方から来ている人たちなのかとかわかりますか。</p>
委員 B	<p>団体の名称とか、仮にその中に旅行会社が入った場合に、取扱いの旅行会社とかそういうことはわかります。</p>
委員 E	<p>ある程度わかれば、いろいろと増やせる方策も考えられると思います。やはり、マリンレジャーさんといろいろ話もして、どこから働きかければお客さんが増えるのか、あるいはここは全くアピールできていないとか、そういうことをしっかり分析しないとこれは増やせないですよ。今は本当に、どこに魚がいるのかわからないのに釣り糸をたれているみたいなそんな雰囲気を感じます。もう少し、海の中がどうなっているのか見ることを考えた方がいい、とそういう話だと思いますよ。今僕が言っていることなんていうのは、どうやったら釣れるかではなくて、どこに魚がいそうかを聞いているみたいなそういう感じですよ。そういうことに関して IT とか使えるなら使う、あるいは船内でスマホを使ってアンケートを取るようになるなどそういうことをやっていかないと、いつまで経っても釣り糸を変なところにたらしめているだけになりますからぜひそこをぜひ進めてほしいです。僕はそういうものを最後の考察に書いてほしいなと思いました。</p> <p>はい、以上です。</p>
議長	<p>先生、ありがとうございました。確かに細かい先ほどの3つのカテゴリの部分ではですね、その細かい分析をやれるところはやらないと次へ繋がらないと思います。そのあたりも含めて、今後の我々事務局も含めた課題点といったところで、改めて可能なものは、この会議の中に出して考察をまたみなさま方をお願いするというようにやっていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>

委員 F	<p>ほか、よろしいですかね。</p> <p>あの、すみません。離島住民の減少の件ですが。私、社会福祉協議会ですけど、うちの方で買い物支援というのをやっていて、その利用が少なくなっています。買い物支援で、以前はうちのマイクロバスでイオンまでとかやっていたんですが、今、あの辺がなくなっていますよね。回数が減っているかと思いますが。</p>
委員 G	<p>買い物ツアー、2か月に1回。人数が減っていますよね。</p>
委員 F	<p>人数は減っていますよね。その辺のところも利用人数に影響しているのではないかと思います。そういうところも一部含まれているのではないかと今少し思いました。</p>
委員 G	<p>人数も減ったというのは、船の便利というか、脚も悪いので乗り降りが大変で、そういうところで少なくなったのは確かに認めます。賢島の乗り降りはいいですけど、和具が乗り降りにもものすごく悪い。私、今日降りたけど、船と階段の間がすごい。船はもうそこまで着くけど、階段までにこれくらい（肩幅くらい？）あるので、そうすると降りるのに、間崎の人は脚が悪い人が多いので、和具は行にくいなと言って、それでどうしても行かなきゃいけないときは行くけど、我慢できるならやめようかなという人の声が少し多くなってきました。和具もマックスバリュができたことだし、その階段を、乗り降りにももう少し具合よくして両方に行けるような体制を取ってもらえれば、間崎の住民も多くなるのではないかと思います。今のところ、みんなと話をしているとそういう声が多いです。賢島はちゃんとした船着きだけど、間崎は風が吹けば波で乗り降りに苦労する、和具はそんなに波はないけど階段の差が大きくて、階段までまたぐのによろける、そういう声がよく聞かれます。そうすると徐々に、私もそうだけど和具へ行くより賢島へ行く方が乗り降りは楽なので、とそういう間崎の人の声です。それで、今は間崎の若い人は自分の船で買い物に行くけど、自分たちも歳をとっていけば定期船を利用する必要があるのもそういうことを若い人たちも、もうちょっと考えてほしいなと思います。歳をとった人にばかり意見を聞くより、自分たちも定期船に乗ってみて悪いところがあったらマリンレジャーさんとか市に言ってもらった方が改善できるのではないかと私は思います。以上です。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございます。Fさん、よろしいですかね。</p>

	はい、他よろしいですか。
委員 E	すみません、よろしいですか。
議長	はい、どうぞ。
委員 E	今、画面は見えますか。これは、ちょっと古い和具港の状況で、パッと出せたので出したのですが。先ほど自転車を乗せづらいとおっしゃっていましたが、今の階段の話と具体的に同じことですか、
委員 B	同じことです。
委員 G	同じだし、潮が引いているときとの違いもあるし。自転車で載せるのは潮の満ち引きで大きく違うので。
委員 B	潮位によって、奥まで行ける時とそうでない時と。
委員 D	高い時は階段の上まで上がらないと乗船できないです。
委員 E	そういうことですね。
委員 G	それで、船との距離がすごくあいているのです。
委員 E	この階段がそういうことでもんね。それは、何か改善できることはあるのですか。そういうことを考えることが大事ですよ。
委員 G	手摺も遠いし。
委員 D	ちょっとそれに付け加えて、間崎の自治会の方からアドバイスすると、まず浮棧橋じゃないというのが第一の原因だと思います。これは自転車の時に矢尾社長もおっしゃっていたように、非常に乗り降りが危ない。特に間崎は強風が吹いているともう、舳先が何十センチもアップダウンします。それを本当に80、90のお年寄りが手摺もなく、船の船体も濡れているその状態で、本当に安全に乗り降りできるのか、事故がないのが本当に不思議なくらい。船長さんのスキルがいいから、ぴたっと着けられていますけど、本当に非常に難しいと思います。鳥羽の定期船の乗り場みたいに、浮棧橋だったり

	<p>したら、もっと安全な乗降というのができると思いますけど。特に間崎について言うと、港は第一種の漁港ではありますが、非常に西風、南風を受けやすく、港内のうねりというのも非常に大きいです。もう、この冬場になると、西風とか入ってくると堤防を越えて市道間崎線までも潮がかぶるくらい<u>のうねりが入ってきます。</u></p> <p>そういう船がアップダウンする中で、お年寄りが乗り降りをしなないといけないという状況です。という点でいうと、これはただ公共交通という交通の部分だけでなく、港湾整備、まあ漁港ではありますけど、そちらの方でそういう公共的な浮棧橋があると、これは定期船以外でも個人の船で自分のお父さんお母さんをとという意味でも非常に助かるな、と思います。一応自治会の方で小さな浮棧橋を作ったりもしていますが、それでもやはりお天気が悪いと棧橋も落ちたり、非常に苦勞しているということが背景としてあるということをご理解いただけるといいかなと思います。</p> <p>あと先ほど、令和6年の追加になってしまいますが、令和6年の対前年で43%減っているというのをいろいろ考えていましたが、延べで2100人は、行って帰って1回ずつ乗ったらこれは2人という計算でよろしいですよ？賢島に行って間崎に帰ってきたら2人ですよ？往復で1人ではないですもんね、片道ですよ。</p>
委員B	片道です。
委員D	<p>そうすると、令和6年の秋に1年に300日鶴方に通っていた方が入院して昨年の春に亡くなりました。それだけで600人になるのです。それで今、600人で計算すると、もしその人が今年もずっと鶴方に行っていたとしたら、これは31%で済んだ。この人ひとりで11%稼いでいたのか、と今計算して思いました。分母というか、母数が2100というそのものかなり小さいので、そういう利用頻度の高い方の利用の排出量が非常にこの数字的にみると大きいと、これは付け加えたいと思います。以上です。</p>
委員E	<p>今のことは大事だと思います。1人の方がたくさん使っていてその方がいなくなるのだったら、ある意味その数っていうのは、あまり悪い減少ではなくて、亡くなったということは大変な悪い事ですけど、この利用状況にとつては、ひとりの方がいなくなったので減少しただけであって。だったら、この43%というのは、まだそれでも減少分はありますけど、あと残りのところはどうかと考えればいいと思います。だから、そういう注記を付けた方がいいのではないかと思います。はい、ありがとうございます。</p>

議長	<p>ありがとうございます。確かに、先ほどE先生の方からご意見いただいた今のDさんの話については深い考察に繋がるような部分になるのかなと自分も思っておりますので、またこの辺の所につきましては今後の参考にさせていただきますたいと思います。</p>
委員E	<p>あとすみません。栈橋のことも何か改善できるのなら、これは国に対して出していくものなので、そういうところが問題だというのはこういう所でもアピールすべきなのかなと思います。何かやられていることはあるのですか？</p>
議長	<p>全般的に、昨年あたりから首長の方が直接国交省さんなどに出向いて要望活動とかをやっております。基本的には地元の要望も受けて、ということになります。それを受けてまた要望のテーブルに載せていくということは可能なかなと思います。そこはまた、B社長のご意見ですとか地元の間崎住民の方々のご意見というのは集約した中で、そういう要望のテーブルに載せていきたいというのは可能だと思いますので。</p>
委員E	<p>少なくとも、この評価には書いておいたらいいじゃないですか。議論として出たので。はい、よろしくお願いします。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、1点目の議題、闊達なご意見をいただきましたが、よろしいでしょうか。</p> <p>事務局さん、今の話はこのサイクリングの部分も含めて、今の部分で追記ができるようなところがあるのならば、それを修正したのちにご承認いただくという話になるだろうし、その辺ちょっとご説明いただいて。</p>
事務局	<p>はい、ご協議の方ありがとうございます。たくさんご意見頂戴いたしました。評価の手法として、まだまだ至らない点等もご指摘いただきましたので、ご意見等踏まえて再度こちらの評価書を修正させていただいた後に、再度みなさまにご確認いただいて、そのうえで国へ提出させていただくというプロセスを取らせていただきたいと考えておりますが、そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員B	<p>私、気になるのですが、そのサイクリングの部分はどのような追記をされる</p>

議長	<p>のか。</p> <p>それは今、E先生にも話をもらいましたが、そもそも追記していくのかどうかも含めて考える中で、もちろん追記しないということもあり得るのかなと思いますので。</p>
事務局	<p>そうですね、昨年の評価の中で入れてはいましたが、そこに少し無理があったのではないかというお話もありましたので、その評価をもって、今の意見も含めてどうするかという書き方、これをやっていくという書き方ではなくて、その反省的な書き方で整理できればなというふうに思います。</p>
委員E	<p>それよりも、それを推奨できない状況を改善していくということを書いていく方がいいということだからさっきの棧橋のことも言った、ということではないのですか。やめるというだけだと非常に消極的に感じますので。</p>
議長	<p>そうですね、自転車活用というのはそもそも、ナショナルサイクルロードも含めて全般的には推奨していこうという方向で行くわけですから、うちの地域にあってそれがなぜできないのかというところの考察をやるということで。ありがとうございます。</p> <p>そうしたら、それを改めてまた別の機会にということ。</p>
事務局	<p>書面決議で。</p>
議長	<p>わかりました。本来ここで、この原案で実は決を採らせていただく予定でしたが、さまざまなご意見をいただきましたので、そのあたりを踏まえた中で、また皆さま方につきましては改めて書面決議ということで、お願いする形になろうかと思えます。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは引き続いて、2点目ということをお願いしたいと思います。協議事項としまして、離島住民の割引単価の変更についてということで、改めて事務局の方から説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>はい、それでは説明させていただきます。資料につきましては、25ページ、右肩資料2をご覧くださいませでしょうか。</p> <p>【資料2の説明】</p>

議長	はい、事務局の方から2点目の議題について説明させていただきました。ただ今の件につきまして、ご意見、ご質問等いかがでしょうか。
委員E	よろしいでしょうか。本質的には特にはいいですけど、1点だけ気になったのは、同じ距離の路線バスというのを、具体的にこの区間3.3キロでやっていますが、これは単純に三重交通の標準的な運賃だったら3.3キロだといくらですかというのでやるのではだめですか。これはちょっとまどろっこしいって感じがしてしまいます。ただ、三重交通として3.3キロだといくらかというのはホームページ見るとありません。というのは、実際には3.3キロでいくらは必ずしもなっていないこともあるので、区間によってはちょっと下げているとか、逆に上げている場合もありうるのですが、そういうこともあって、標準的に三重交通の運賃の決定法だと3.3キでいくらかというのでやっていけばいいと思ったのですが、どうですか。
議長	今、確認できる？そのあたり。
事務局	そうですね、ありがとうございます。一度三重交通さんに3.3キロでいくらというのが出せるかどうか確認させていただいて、今長沢と鵜方西口間というところで計算をしていますが、島民の方にとってそれが有利な方であればそれを採用していくというような方向も含めて検討できればと思います。そのあたりはまた、中部運輸局さまにも相談に乗っていただければと思います。よろしくお願いします。
委員E	あと、もう一個気づいたのですが、実はバスに乗っておられたらお気づきだと思いますが、運賃は、決して各停留所ごとではないですよ。運賃が上がる停留所と上がらない停留所がありますよね。それで、運賃が上がらないところは、運賃が上がる場所の停留所に紐付けて運賃を設定していたりします。そうすると、本当は3.5キロなのに3.3キロで計算しているというようになっている可能性がありますね。それでこれが、鵜方西口～長沢間がそういうことになっていないかが心配なんですけど。だからやはり、三重交通さんに標準的な運賃を聞いた方がいいと思いました。ただこれをやったことによって大きく割引が変わってしまうといけないので、一回調べてみていただくと有難いのですが。とりあえずはこれで納得しますけど、本当はそういうやり方でないといけないと思いました。以上です。
事務局	ありがとうございます。ご承認いただければいったんはこの案では進めつ

	<p>つ、その点は確認させていただいて、もし変わるようであれば別途そちらをみなさまにご報告できるような形にしたいと思っております。まずはやはり、島民のみなさまにとって有利な方法というところは前提に、一度調べるようにいたします。</p>
議長	<p>すみません、E先生、ありがとうございます。他、よろしいですかね。</p>
委員B	<p>1点だけ気になっているところがあって、それでいいのかどうか検討しないとわからないのですが。この改定時期の、3月31日までに購入された乗船券については4月1日以降も有効ということになっていますが、実は、昨年4月からこの島民割引の補助制度について、発券精算から着券精算に変わりました。従って、発券精算であればそのままやっても全く問題なかったのですが、実は着券精算に変わっているということは、発売時には割引単価140円のもりで発売したものが、着券精算になると120円の補助になるので、誤差が生じてしまいます。それで、金額的にはそんなに大きくはないのですが、この辺の誤差が出てくるのが気持ち悪いなということ、今後またお話をさせていただければありがたいです。</p>
事務局	<p>はい。</p>
議長	<p>ありがとうございます。よろしいですかね。</p> <p>それでは、いったんここは、採決ということで、さまざまご意見ありがとうございました。今、事務局の岩崎の方から説明したとおり、E先生からご指摘していただいた内容でちょっと有利な方向に変わる可能性もあるのですが、そこはまた改めてお調べさせていただいた中で、また皆さま方のご意見をお伺いしたいところになりますけれども、今回の協議事項2の部分につきましては割引単価120円に変更するということで、ご承認をいただけますでしょうか。よろしければ挙手をお願いしたいと思います。</p> <p>はい、ありがとうございます。それではいったん、協議事項2につきましては、挙手全員ということで、全会一致で承認とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>先ほどの確認事項があるとしても、令和7年4月1日に割引単価変更というようなところになりますので、そのあたりのことにつきましてはよろしくお伺いしたいと思います。</p> <p>それでは引き続きまして、その他のところでまず1点、みなさま方のお手元に、この観光地づくりの黄色いチラシがいつていると思いますが、この部</p>

運輸局	<p>分につきまして、海事局の方からご説明をいただけるということでお願いしたいと思います。</p> <p>中部運輸局のH（随行者）でございます。1点、お知らせをさせていただきたいと思います。先ほどもおっしゃっていただいたように、資料の中に1枚、黄色のチラシを配布させていただいております。魅力ある観光地づくりを進めるきっかけをつかんでいただくために、1月31日に「ささる観光地づくりシンポジウム」が名古屋で開催されます。オンラインでも視聴できますので、ご興味のある方は1月28日までにお申し込みをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
議長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>その他、事務局の方からは、何か議題、追加の議題とかはよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい、特にございません。</p>
議長	<p>はい、それではみなさま方もよろしいですかね。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委員D	<p>定期船の運行状況について、なるべく早く情報をいただきたいというのがあります。例えば、明日台風が来るなんていう時には、マリンレジャーさんにうかがって、多分休みますよとかいうのは把握できますけど、直近で困ったのは10月2日、遊覧船が故障した時に定期船がその救助に駆けつけてそれで運休をしました。最初、マリンレジャーさんに聞いた時に定期船は運航していますという話でした。だからお客さんにもお待ちくださいと言って、そのアナウンスもできたのですが、その後時間が経つと運休しますとなって、それも市役所の方に確認してもまだ情報が錯綜している状態で、僕らが今その情報を知るのは、防災無線の放送だけなのです。それ以外の情報はないです。そういうのが、例えば公式ラインだとかツイッターでもいいですけど何かダイレクトに、この便運休しますというのがわかれば、僕とか若い人であればアクセスできて、その情報を島の人たちに電話で伝えるなどできるので、即座にそういう情報を回していただくと助かります。</p>
委員B	<p>あの日はですね、非常に当社の方も混乱しておりまして、情報発信という意味では後手に回ったというのがございます。申し訳ございませんでした。また営業所の方でもですね、通常すぐにやるべきである防災無線もそろわな</p>

	<p>かったと、失念をしていたと聞いております。それで、先ほどDさんからありました、何らかの形で確認ができればという部分では、弊社のホームページで・・・</p>
委員D	<p>ホームページ、僕は見ましたが、すぐ出ていなかったです。</p>
委員B	<p>出ていないというのは、実は、情報を発信すべきところ情報を取りまとめるべき機能が、機能していなかったところであって、要するに、どこにも出せなかった、出していなかった状態というようなことでしたので、正常に弊社の中で機能すればホームページというのが一番確認しやすい箇所であるというのは、そういうことです。</p>
委員D	<p>ぜひ、お願いいたします。</p>
議長	<p>はい、これはいろいろ、かなりイレギュラーな話でもありまして、現場はバタバタしていたかなというのは、推測しているところです。やはり一方で、島民の方が待っていただいているとか、そういうことは後でお話を伺わせていただいたので、なるべく早いうちに情報を出していただくというような部分でご協力いただければと思っております。</p>
委員G	<p>平日は、間崎から出るといって病院へ行くのが多くて、病氣したから行くのに待っていても定期船は来ない。それで、たまたま知っている人がいたから間崎まで送ってもらったけれど、それがなかったら3時15分までどこにいます？だから、わかっていたらなるべく早く。</p>
議長	<p>そうですね。マリンレジャーさんもいろいろ情報を出して・・・</p>
委員G	<p>それでDさんに電話すれば、大抵の携帯を持っている人は登録してあるから連絡があると思うので、その方が早いと思います。</p>
議長	<p>わかりました。またそのあたりは、マリンレジャーさんもよろしくお願ひしたいと思います。</p>
委員E	<p>すみません、よろしいですか。</p>
議長	<p>はい、どうぞ。お願いします。</p>

委員E

今、ホームページを画面共有しています。今日は鳥羽湾めぐりは運休になっているということですが、これがいつのことかわからないので、何日何時現在とか書いて出してもらえるといいな、というのは少し思いました。そうでないと、そういうふうにはなっていないとは思いますが、その後までずっとこうかと思ってしまうことがあります。何日何時と書いていただければ、まだ更新していないのだろう等ということがわかっていいかなと思った次第です。あと、もしこれが正確であったとしたらこれ自体が例えば船着き場に表示されるとかもいいですね。今パソコン等、非常にこういうのが安くできる時代なので、ぜひ、市役所とかでも考えてもらえるといいな、と思いました。あとはもし、GPSが載せられれば、GPSで船が今どこにいるのか、またこれもサイネージで示したりすることもできるので、まだ実は船は出ていませんとか、そういうことは特に仕込まなくてもできるのではないかと思います。今時こういうのはできることが多いので、ぜひリアルタイムで今どうなっているのかわかるようなことをぜひ考えたらいいな、と思いましたので申しあげました。以上です。

議長

はい、ありがとうございました。それではですね、お時間もだいぶ経ってきているようですので、みなさま方の方から特によろしければ、これを持って第2回の離島航路幹事会を終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、すみません。ありがとうございました。

--	--